

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370400794		
法人名	医療法人 慈照会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	名古屋市西区上名古屋二丁目25番3号		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNo=2370400794-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNo=2370400794-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年3月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人の基本理念「地域に必要とされる施設でありたい」に基づき、地域との交流も深めながら運営を行っています。季節にちなんだ行事を取り入れ日常生活の様子を法人のインスタグラムを使用し情報発信を行っています。法人内には多職種(看護師、OT、PT、ST、管理栄養士、歯科衛生士)がおり、必要時は助言を求め、又ホームに来ていただき、利用者様をみていただいています。協力医療機関のバックアップのもと医療連携を整備し、健康管理を行い安心につながるよう取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

《コロナ禍により電話でのヒヤリングに代えて実施した》  
 法人理念にも地域との積極的な関わりを目指すことが謳われており、ホームもそれに沿った取組みがある。地域行事の中止や外部との交流機会の喪失など、現在は大きな制約があるが、コロナ禍終息を待って取り組む意向がある。  
 家族アンケートには、利用者への日常の支援や、家族への積極的な情報提供、安心できる医療体制について感謝の言葉が寄せられている。職員は、利用者との関わりを大切にして支援にあたっている。出来ることを継続できるように利用者の状態を把握し、適切な支援が提供出来るように日々の業務に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に必要とされる施設でありたい」という法人の理念に基づきホームの目標を定め、目標達成に向け取り組んでいる。別紙『慈照会品質方針』参照	法人理念を基にホームの目標を定め、実現に向けて取り組んでいる。職員は月次目標を定め、達成に向けて取り組み、振り返りを行い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染拡大により地域行事の中止が続いている状態。回覧板のやり取りや散歩に出かけ地域の人たちと挨拶を交わすなどしている。	コロナ禍によって様々な地域の行事が中止され、利用者の交流機会が失われている。地域の回覧板のやり取りや散歩は継続しており、コロナ禍終息を待っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、ホームの事例をもとに認知症の理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦ではあるが、会議ができるだけ行えるよう、参加人数を減らすなどご協力いただき、ホームの様子や取り組み状況の報告、情報交換などを行った。	感染状況を考慮し、運営推進会議を対面・書面で開催している。ホームの近況や利用者の様子などを報告し、情報交換の機会としている。対面での開催に際しては、万全の感染対策を施して行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で支援センター職員様にホーム内の様子や取り組み内容を伝え意見などいただくようにしている。市町村にはセクハラ事例について相談を行うなどご協力いただけた。	行政との意見交換や情報のやり取りは、電話やFAX、メールが主となっている。行政のホームページを活用して情報を得ており、必要に応じて担当者と対面で話をすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという認識を持ちケアしている。立地条件もあり、玄関の施錠はご家族様に説明し理解を頂いているが、スタッフが一緒の時は解放するように努めている。	身体拘束適正化に関する法人の取組みがあり、部門ミーティングでは事例検討が行われ、その内容は職員にも周知されている。職員は身体拘束をしないケアに努め、スピーチロックについても、管理者が日常の業務の中で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に加え、着替え、入浴時などに身体チェックを行う。現場での言葉使い、会話の内容など問題がないか話し合いを行い、職員間で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解している。必要性の検討を行い、その都度検討し活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに出来る事出来ない事の説明をしている。不明な点は問い合わせを頂けるよう伝え、家族からの疑問点などがあればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話を伺っている。要望など意見をもとに職員間で共有しケアに活かしているよう検討している。外部の窓口についてもお知らせしている。	感染状況を考慮し、現在は家族面会を中止している。家族の意見や要望は電話で聞き取り、把握した意向を個別の記録に残している。介護記録や申し送りノートで職員に周知し、ホーム運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回会議を行い意見を聞く機会を設け助言をうけている。	管理者や法人役員が参加する会議が毎月開催され、職員が意見や要望・提案などを表出する機会となっている。管理者とは日常的に話す機会があり、個別の面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回会議を行い意見を聞く機会を設け助言をうけている。職員個々に目標を作成し、努力や成果など把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修や外部研修の参加を呼び掛けている。必要時は法人内スタッフに依頼し、移乗方法などホーム内で研修を行っていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦により困難になってはいるが、研修時に同業者と交流がとれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に生活状態や意向の把握を行っている。ご本人様に事前にお会いする事で安心していただけるよう努めている。生活状況を職員間で把握し情報共有を行い、安心が確保が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時、生活で困っていた事や不安に思っていた事など、話を聞く中から情報収集をしている。現在の状況を把握したうえでどのように対応していくか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人、ご家族様の意向を確認し、その都度、主治医・看護師・担当者等で相談。ホームでできる事出来ない事を説明した上で改善にむけた支援の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、会話だけでなくスキンシップを行い、心許せる近い存在であるよう心がけ、楽しんだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染防止のためビニールシートで囲い面会の場所を設け、できるだけくつろいで過ごせるよう対応している。ホームの様子をお伝えし、ご家族様と情報交換を積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、面会が難しい状況であるが、希望時は感染予防に取り組みながら面会していたく様に取り組んでいる。	家族や友人知人の面会は条件付きで認めていたが、コロナの感染状況によって現在は中止している。外出や訪問が難しい中、お茶や習字・編み物などの趣味や習慣の継続、通信支援等を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの談話を通して、利用者同士の関係を観察し気の合う仲間、そうでない者の把握をし、利用者同士の間に入り会話・コミュニケーションができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる場合はケアプラン等の情報提供を行っている。退居先に訪問し、ご本人様と話をする機会も作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動・しぐさから何をしたいのか、どうしたいのか等の思いをカルテに記入しスタッフ間で共有している。入浴、散歩など1対1の場面で話しやすい雰囲気を作る様にしている。	利用者に日常的に寄り添い、その関わりの中から、思いや意向を把握するように努めている。知りえた情報は記録され、職員間で周知されている。アセスメントも必要に応じて更新されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報収集し、慣れ親しんだ物を使用していただくとともに、面会時には日々の状況を伝えるだけでなく、ご本人様から得られた情報をもとに以前の生活について聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、日誌・カルテなどに記録し状態の把握に努めている。申し送りなど行い情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いたことをカルテに記載し、変更が必要な場合は計画に付け加えている。ご家族様にも面会時など、意向確認・意見交換を行い介護計画を作成している。	利用者や家族の意向を把握し、毎月行われるモニタリングや日々の記録等を検討し、介護計画に反映させている。介護計画は3ヶ月毎及び、利用者の状態に変化があれば、その都度更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、気づきやケアの状況をカルテに記録、申し送りで情報共有し把握できるように努めている。モニタリングを行い、介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、対応している。職員間で現状に即したケアが提供できるように介護計画を修正している。また、ご家族様にも意向確認・意見交換を行い介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	派出所や消防団と交流し、協力を呼びかけている。支援センターの方や民生委員さんと会議で意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の変更を勧めたりしていないが、訪問診療に変わる方がほとんどである。希望する医療機関に通院する入居者様は日々の状態を情報提供し、必要時家族とともに病院受診している。	月2回、協力医の訪問診療があり、整形外科や歯科の訪問もある。専門診療科への受診は家族等の対応となるが、ホームから家族に対して利用者の状態についての情報提供がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師を配置している。身体状況の変化があった時は報告し相談が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い、早期退院に努めている。入院のお見舞いは難しい状況であるが、病院関係者やご家族様と連絡を取り合いご家族様の意向を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針については重要事項説明書にのせ説明している。訪問診療が開始となり、家族の意向を踏まえ、出来る限りホームでの生活ができるよう医師・看護師と連携し取り組んでいる。	重度化した場合は、医師を含めた家族等との話し合いでケアの方向性を決定し、ホームで出来る範囲での対応となる。基本的に看取りは行っておらず、入居時にホームの方針・対応を説明し、家族等からは理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について手順書を作成、スタッフは内容を理解し適時に行動できるようにしている。法人内で年1回救命蘇生・AED操作の講習会をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいて日中・夜間想定のある防火震災訓練を行っている。今年度はご家族様・地域の方の参加難しかったが、利用者とともに避難の実際を訓練している。	法人とホーム独自の防災計画があり、避難訓練を行い、災害備蓄・防災用品も備えている。水害想定のある避難訓練を、今後実施する予定である。BCP(事業継続計画)を策定中で、災害発生に備えている。	災害に限らず、感染症をも含めたBCPの早期作成が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や言葉遣いに問題がないか、注意しあっている。個々の言葉かけや対応を振り返り、直すべきところは改善に取り組んでいる。	法人には年間の研修計画があり、接遇や人権擁護、プライバシー等について研修を行っている。職員は、利用者との日々の関わりの中で不適切な対応を行わないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から食べたい物・好きな物を聞いたり、着替えの準備で服を選んでもらったり何気ない会話ややりとりから思いを読み取り、決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、その中でどのように過ごしたいかを考え、一人ひとりのペースに合わせて支援している。できるだけ希望にそい、相手のペースを大切にできるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と一緒に洋服を選んだり、外出時には場所に応じた格好ができるよう支援している。髪の毛や髭などの整容も乱れがないよう整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等、何が好きかを聞きながら、おやつや食事に取り入れている。買物に出かける事は控えているため何が良いか伺いながらスタッフが買いに出かけている。食事がすすむよう形態など工夫している。	食事に関し、利用者が出来ることを手伝っている。誕生日のケーキや行事食の提供があり、リクエストにも出来る範囲で応えている。菜園で収穫した野菜が食卓に上がるなど、楽しい食事場面を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や体調、病態を把握し個々に合わせた食事を提供している。摂取量・体重確認し、補食等も提供している。水分摂取が進むよう好みに応じてお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	7月から訪問歯科を開始。口腔内の相談やケアの相談が素早く出来る様になった。能力に応じて声かけ・見守りや介助、確認を行っている。義歯の管理も個々の能力や習慣に応じて支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄時間の把握に努めている。個々にあったトイレ誘導・声かけを行いトイレでの排泄を支援している。おむつ使用時にはスタッフ間で検討し、ご家族様にも相談している。	利用者の排泄状況を把握し、適切な声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄を基本として支援している。夜間の対応も、利用者個々に合わせて個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供。腹部のマッサージをしたり、適度な運動を促したりしている。便の状態を確認し出ない時には乳製品を提供し便秘にならないよう注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や長さは好みに応じて声かけし、リラクセスできるよう心掛けている。昔話やご家族様のお話など、会話をすることで楽しい時間になるようにしている。皮膚状態や汚染時には臨機応変に入浴支援している。	週3回の入浴を基本とし、拒否や体調などに配慮して対応している。利用者と職員が1対1で会話できる機会であり、コミュニケーションの場としても活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが安定できるよう日中の活動を促している。個々の体調・表情をみて昼寝など、臥床の声かけをしている。夜間眠れない時には飲み物を提供、話を聞き安心していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を確認し、薬の情報を確認。薬の変更があった場合は全スタッフに伝えている。利用者様の状態の変化の観察に努め、何かあれば医師・看護師、薬剤師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の話や生活歴から得意な事を見つけ出し、役割としてお願いし、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出や買物、喫茶店などの外出はできていない状況。散歩や神社など人込みを避け外出にお誘いし外出支援に取り組んでいる。外出や日常の様子などSNSを利用し情報提供している。	コロナ禍により、家族との外出や外食は控えている。ホーム周辺への散歩は継続しており、近くの神社や公園に出かけている。ホーム内で出来ることに注力し、月ごとの行事やレクリエーションを行い、気分転換を図っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がないと心配に思う方もいるので希望に合わせ、ご家族様と相談の上可能な範囲での所持を支援している。買物時にお金を手渡していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望に沿い、ご家族の意向を確認しながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように手作りのカレンダーや掲示物をみなさんと作成し、目で楽しむ事ができるようにしている。窓を開け、空気を入れ替えたり、温度・湿度をチェックし環境を整えている。	コロナ禍であり、電話での聞き取りのため、視察は実施していない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。リビングで利用者様同士で話をしたり洗濯物をたたんだり過ごしている。皆さん一緒に歌番組を楽しまれる事も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただけるよう入居時に話している。ご家族様に協力して頂き、過ごしやすい居室作りができるよう努めている。ご家族様や面会時の写真を飾っている方もいる。	コロナ禍であり、電話での聞き取りのため、視察は実施していない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの位置や衣服の場所など一人ひとりの状況に合わせ環境を整備している。トイレや部屋の場所がわかるよう名前の表示をするなど工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400794		
法人名	医療法人 慈照会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	名古屋市西区上名古屋二丁目25番3号		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370400794-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2370400794-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念「地域に必要とされる施設でありたい」に基づき、地域との交流も深めながら運営を行っています。季節にちなんだ行事を取り入れ日常生活の様子を法人のインスタグラムを使用し情報発信を行っています。法人内には多職種(看護師、OT、PT、ST、管理栄養士、歯科衛生士)がおり、必要時は助言を求め、又ホームに来ていただき、利用者様をみていただいています。協力医療機関のバックアップのもと医療連携を整備し、健康管理を行い安心につながるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に必要とされる施設でありたい」という法人の理念に基づきホームの目標を定め、目標達成に向け取り組んでいる。別紙『慈照会品質方針』参照		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染拡大により地域行事の中止が続いている状態。回覧板のやり取りや散歩に出かけ地域の人たちと挨拶を交わすなどしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、ホームの事例をもとに認知症の理解を深めていただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ渦ではあるが、会議ができるだけ行えるよう、参加人数を減らすなどご協力いただき、ホームの様子や取り組み状況の報告、情報交換などを行った。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で支援センター職員様にホーム内の様子や取り組み内容を伝え意見などいただくようにしている。市町村にはセクハラ事例について相談を行うなどご協力いただけた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという認識を持ちケアしている。立地条件もあり、玄関の施錠はご家族様に説明し理解を頂いているが、スタッフが一緒の時は解放するように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束に加え、着替え、入浴時などに身体チェックを行う。現場での言葉使い、会話の内容など問題がないか話し合いを行い、職員間で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解している。必要性の検討を行い、その都度検討し活用していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに出来る事出来ない事の説明をしている。不明な点は問い合わせを頂けるよう伝え、家族からの疑問点などがあればその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にお話を伺っている。要望など意見をもとに職員間で共有しケアに活かしていくよう検討している。外部の窓口についてもお知らせしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回会議を行い意見を聞く機会を設け助言をうけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回会議を行い意見を聞く機会を設け助言をうけている。職員個々に目標を作成し、努力や成果など把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修や外部研修の参加を呼び掛けている。必要時は法人内スタッフに依頼し、移乗方法などホーム内で研修を行っていただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦により困難になってはいるが、研修時に同業者と交流がとれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に生活状態や意向の把握を行っている。ご本人様に事前にお会いする事で安心していただけるよう努めている。生活状況を職員間で把握し情報共有を行い、安心が確保が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談時、生活で困っていた事や不安に思っていた事など、話を聞く中から情報収集をしている。現在の状況を把握したうえでどのように対応していくか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人、ご家族様の意向を確認し、その都度、主治医・看護師・担当者等で相談。ホームでできる事出来ない事を説明した上で改善にむけた支援の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、会話だけでなくスキンシップを行い、心許せる近い存在であるよう心がけ、楽しんだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルス感染防止のためビニールシートで囲い面会の場所を設け、できるだけくつろいで過ごせるよう対応している。ホームの様子をお伝えし、ご家族様と情報交換を積極的に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、面会が難しい状況であるが、希望時は感染予防に取り組みながら面会していただく様に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの談話を通して、利用者同士の関係を観察し気の合う仲間、そうでない者の把握をし、利用者同士の間に入り会話・コミュニケーションができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる場合はケアプラン等の情報提供を行っている。退居先に訪問し、ご本人様と話をする機会も作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動・しぐさから何をしたいのか、どうしたいのか等の思いをカルテに記入しスタッフ間で共有している。入浴、散歩など1対1の場面で話しやすい雰囲気を作る様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報収集し、慣れ親しんだ物を使用していただくとともに、面会時には日々の状況を伝えるだけでなく、ご本人様から得られた情報をもとに以前の生活について聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、日誌・カルテなどに記録し状態の把握に努めている。申し送りなど行い情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いたことをカルテに記載し、変更が必要な場合は計画に付け加えている。ご家族様にも面会時など、意向確認・意見交換を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察し、気づきやケアの状況をカルテに記録、申し送りで情報共有し把握できるように努めている。モニタリングを行い、介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じ、対応している。職員間で現状に即したケアが提供できるように介護計画を修正している。また、ご家族様にも意向確認・意見交換を行い介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	派出所や消防団と交流し、協力を呼びかけている。支援センターの方や民生委員さんと会議で意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の変更を勧めたりしていないが、訪問診療に変わる方がほとんどである。希望する医療機関に通院する入居者様は日々の状態を情報提供し、必要時家族とともに病院受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師を配置している。身体状況の変化があった時は報告し相談が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い、早期退院に努めている。入院のお見舞いは難しい状況であるが、病院関係者やご家族様と連絡を取り合いご家族様の意向を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針については重要事項説明書にのせ説明している。訪問診療が開始となり、家族の意向を踏まえ、出来る限りホームでの生活ができるよう医師・看護師と連携し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について手順書を作成、スタッフは内容を理解し適時に行動できるようにしている。法人内で年1回救命蘇生・AED操作の講習会をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいて日中・夜間想定 of 防火震災訓練を行っている。今年度はご家族様・地域の方の参加難しかったが、利用者とともに避難の実際を訓練している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や言葉遣いに問題がないか、注意しあっている。個々の言葉かけや対応を振り返り、直すべきところは改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から食べたい物・好きな物を聞いたり、着替えの準備で服を選んでもらったり何気ない会話ややりとりから思いを読み取り、決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、その中でどのように過ごしたいかを考え、一人ひとりのペースに合わせて支援している。できるだけ希望にそい、相手のペースを大切にできるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様と一緒に洋服を選んだり、外出時には場所に応じた格好ができるよう支援している。髪の毛や髭などの整容も乱れがないよう整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日等、何が好きかを聞きながら、おやつや食事に取り入れている。買物に出かける事は控えているため何が良いか伺いながらスタッフが買いに出かけている。食事がすすむよう形態など工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や体調、病態を把握し個々に合わせた食事を提供している。摂取量・体重確認し、補食等も提供している。水分摂取が進むよう好みに応じてお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	7月から訪問歯科を開始。口腔内の相談やケアの相談が素早く出来る様になった。能力に応じて声かけ・見守りや介助、確認を行っている。義歯の管理も個々の能力や習慣に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄時間の把握に努めている。個々にあったトイレ誘導・声かけを行いトイレでの排泄を支援している。おむつ使用時にはスタッフ間で検討し、ご家族様にも相談している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、乳製品を提供。腹部のマッサージをしたり、適度な運動を促したりしている。便の状態を確認し出ない時には乳製品を提供し便秘にならないよう注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や長さは好みに応じて声かけし、リラクセスできるよう心掛けています。昔話やご家族様のお話など、会話をすることで楽しい時間になるようにしています。皮膚状態や汚染時には臨機応変に入浴支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが安定できるよう日中の活動を促している。個々の体調・表情をみて昼寝など、臥床の声かけをしている。夜間眠れない時には飲み物を提供、話を聞き安心していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を確認し、薬の情報を確認。薬の変更があった場合は全スタッフに伝えている。利用者様の状態の変化の観察に努め、何かあれば医師・看護師、薬剤師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様の話や生活歴から得意な事を見つけて出し、役割としてお願いし、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出や買物、喫茶店などの外出はできていない状況。散歩や神社など人込みを避け外出にお誘いし外出支援に取り組んでいる。外出や日常の様子などSNSを利用し情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がないと心配に思う方もいるので希望に合わせ、ご家族様と相談の上可能な範囲内の所持を支援している。買物時にお金を手渡していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望に沿い、ご家族の意向を確認しながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように手作りのカレンダーや掲示物をみなさんと作成し、目で楽しむ事ができるようにしている。窓を開け、空気を入れ替えたり、温度・湿度をチェックし環境を整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、思い思いに過ごしていただけるよう工夫している。リビングで利用者様同士で話をしたり洗濯物をたたんだり過ごしている。皆さん一緒に歌番組を楽しまれる事も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただけるよう入居時に話している。ご家族様に協力して頂き、過ごしやすい居室作りができるよう努めている。ご家族様や面会時の写真を飾っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの位置や衣服の場所など一人ひとりの状況に合わせ環境を整備している。トイレや部屋の場所がわかるよう名前の表示をするなど工夫している。		